

特別企画：2019年度長野県内建設業売上高ランキング〈速報〉

上位30社の総売上高は4733億円、8年連続増加 増収企業は22社、角藤（長野市）が初のトップに

はじめに

景気が停滞色を強めた2019年度。米中貿易摩擦の長期化が製造業をはじめとする幅広い産業にマイナスとなったほか、消費税率の引き上げや東日本台風の影響も重なり企業マインドの低下が目立った。また、今年に入ってから新型コロナウイルス感染拡大が経済界に大きな打撃を与え、業績を悪化させる企業が相次いでいる。

TDB景気動向調査で算出する長野県の景気DI（1～100、50が良悪判断の境目）をみると、年度がスタートした2019年4月は「41.4」だったが、12月には「36.8」へ、さらに2020年3月には「28.7」まで後退。多くの業界が伸び悩む中、比較的堅調に推移したのが建設業だった。2019年12月は「47.3」と4月の「48.4」から1.1ポイント減にとどまり、コロナ・ショックが広がった2020年3月には「32.4」まで後退したものの、主要産業の中では唯一30台を確保している。

2019年度、県内大手建設業者の業績はどう推移したのだろうか。帝国データバンクでは2000年度以降、県内建設業売上高ランキング（上位30社）を作成しているが、今回2019年度に到来した各社の決算（2019年4月期～2020年3月期）を対象としたランキングを集計した。当ランキングは5月20日現在で判明したデータに基づいており、連結決算を採用している企業もすべて単体の数字を用いている。なお、3月決算で株主総会が終了していない企業の数字は決算案である。

調査結果（要旨）

■上位30社の総売上高は4733億1500万円、前年度比2.5%増

2019年度県内建設業売上高ランキング集計における上位30社の総売上高は4733億1500万円。前年度比は2.5%増で、2012年度以来8年連続の増加となったが、増加率は2017年度以降2%台と微増が続いている。

■売上高トップは角藤、北野建設が2位、綿半ソリューションズが3位

ランキングトップは、2020年1月期に年売上高約601億6800万円を計上した（株）角藤（長野市）。前回まで、19年連続で1位北野建設（株）（長野市）、2位（株）角藤の順だったが、今回入れ替わった。（株）角藤がトップとなるのは初。綿半ソリューションズ（株）（飯田市）が前年度からワンランクアップして3位に入っている。

■増収企業22社、10%以上増は15社、伸び率トップは竹花工業

売り上げ上位30社のうち、増収となった企業は22社、減収は8社。増収企業は前年度から5社増加している。10%以上増は15社、50%以上増は3社。伸び率トップは2019年7月期に前期比63.1%増の約67億6600万円を計上した竹花工業（株）（小諸市）。

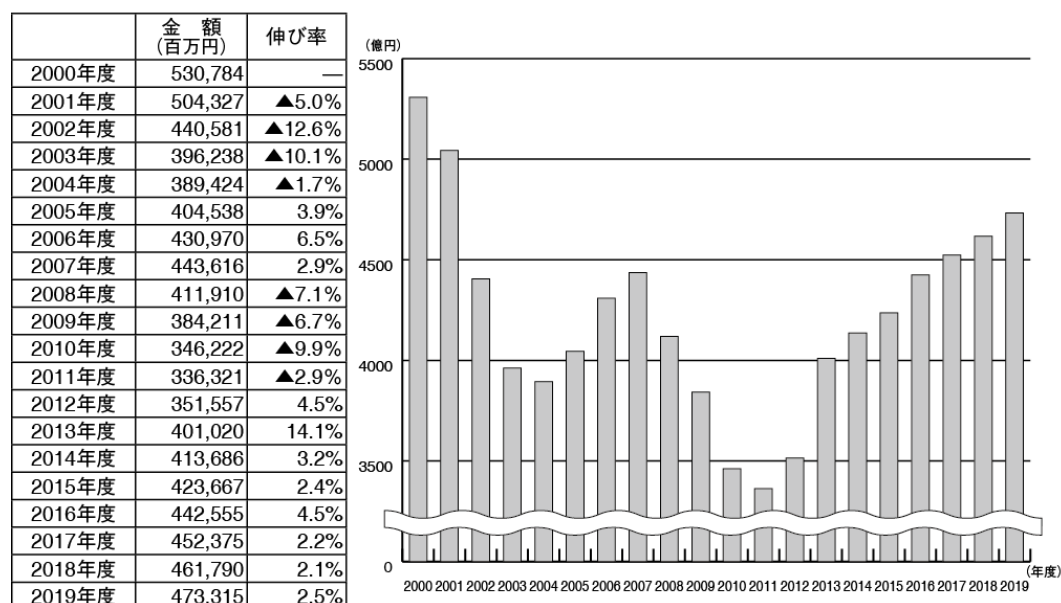
1. 上位30社の総額は4733億1500万円、8年連続増加するも伸び率は3年連続2%台

2019年度決算（2019年4月期～2020年3月期）を対象とした県内建設業売上高上位30社の総額は4733億1500万円となり、前年度から2.5%増加した。増加は2012年度以降8年連続。伸び率は前年度を上回ったが、2017年度以降2%台にとどまっている。

当集計を開始した2000年度の5307億8400万円がこれまでのピーク。翌2001年度も5043億2700万円と2年連続して5000億円を超えた。リーマン・ショック後は減少が続き、2011年度には3363億2100万円とピーク時から36.6%減少。その後は増加に転じ、2012年度から2019年度まで増加が8年続いているが、このところ微増が続く。なお、今回の総売上高は2000年度、2001年度に続き、3番目に高い水準である。

近年は、景気回復の広がりもあって建設市場が拡大。特に東京五輪を控えた首都圏などでそうした傾向が顕著に表れる一方、国土強靱化計画などを背景に公共事業も堅調さを持続。こうした中、技術力や営業力を有する企業、広域で事業を展開する企業などが需要を獲得してきた。景気D Iの動きからは、建設業の景況感が他産業と比べ高いことが窺えるが、産業界全体の低迷、消費税引き上げの影響が設備投資や個人消費に及んでいる様子もみてとれる。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響は一部にとどまり、2020年度以降色濃く及ぶ可能性がある。

県内建設業売上高上位30社の総額推移（2000年度～2019年度）



2. 角藤、北野建設、綿半ソリューションズがトップ3

2019年度県内建設業売上高トップは、2020年1月期に前期比14.0%増となる約601億6800万円と600億円を突破した（株）角藤（長野市）。2020年3月期に約586億8100万円を計上した北野建設（株）（長野市）が2位だった。集計を開始した2000年度から2018年度まで、19年連続して北野建設（株）1位、（株）角藤2位という構図が定着してきたが、今回初めて入れ替わった。3位は綿半ソリューションズ（株）（飯田市）、以下（株）守谷商会（長野市）、（株）TOSYS（長野市）などと続く。

また、上位30社中26社は前回と同じ顔ぶれで、4社が新たにランクインしている。

3. 増収企業 22 社、減収企業 8 社、50%以上増加したのは 3 社

30 社中、増収となったのは 22 社（構成比 73.3%）、減収は 8 社（同 26.7%）だった。増収企業は近年 20 社弱で推移。前年度（2018 年度）は増収企業 17 社、減収企業 12 社（1 社は決算期変更のため比較せず）だったが、今回増収企業は 5 社増え 22 社、減収企業は 4 社減って 8 社。増収企業が減収企業を上回るのは 9 年連続、増収企業が 20 社を超えるのは 6 年ぶり。

建設業の場合、大型物件の完工時期により売り上げの増減幅が大きくなるケースが少ないが、今回 50%以上増に 3 社が該当するなど大幅増収企業が散見されている。伸び率が最も大きかったのは、2019 年 7 月期に前期比 63.1%増の約 67 億 6600 万円を計上した竹花工業（株）（小諸市）。前期から繰り越した複数の大口工事が完工したことなどから前期比は 63.1%増を記録した。このほか、（株）相模組（大町市、前期比 54.2%増）、ルートイン開発（株）（上田市、同 51.6%増）も伸び率が 50%を超えた。なお、増収 22 社のうち、10%以上増加したのは 15 社。

増収・減収企業数の推移（2000年度～2019年度）

	増 収		減 収			増 収		減 収	
	社 数	構成比	社 数	構成比		社 数	構成比	社 数	構成比
2000年度	13	43.3%	16	53.3%	2010年度	10	33.3%	20	66.7%
2001年度	10	33.3%	20	66.7%	2011年度	17	56.7%	13	43.3%
2002年度	8	26.7%	22	73.3%	2012年度	21	70.0%	9	30.0%
2003年度	5	16.7%	24	80.0%	2013年度	29	96.7%	1	3.3%
2004年度	16	53.3%	14	46.7%	2014年度	17	56.7%	13	43.3%
2005年度	17	56.7%	13	43.3%	2015年度	18	60.0%	12	40.0%
2006年度	24	80.0%	6	20.0%	2016年度	19	63.3%	11	36.7%
2007年度	18	60.0%	12	40.0%	2017年度	17	56.7%	13	43.3%
2008年度	10	33.3%	20	66.7%	2018年度	17	58.6%	12	41.4%
2009年度	10	33.3%	20	66.7%	2019年度	22	73.3%	8	26.7%

4. 地区別では「北信」が 12 社、業種別では「土木建築工事」が 15 社で最多

4 地区別によると、「北信」が前年度の 15 社から 3 社減少したものの、12 社（構成比 40.0%）で最多、金額も 2530 億 5900 万円（同 53.5%）と他を大きく引き離れた。「北信」12 社の本社はいずれも長野市である。このほか、「南信」8 社、「中信」6 社、「東信」4 社の順。前年度からは「南信」が 2 社増、「東信」が 1 社増。「中信」は変わらず。

業種別（産業分類コード別）では、「土木建築工事」に該当する企業が 15 社（同 50.0%）と半数。金額も 2377 億 3900 万円（同 50.2%）と 5 割強に達している。社数を前年度と比較すると、「土木建築工事」が 2 社増、「建築工事」が 2 社減で、その他は横ばいだった。

地区別内訳（2019年度）

	社数	構成比	金額 (百万円)	構成比
北信	12	40.0%	253,059	53.5%
東信	4	13.3%	40,915	8.6%
中信	6	20.0%	63,102	13.3%
南信	8	26.7%	116,239	24.6%
合計	30	100.0%	473,315	100.0%

業種別内訳（細分類、2019年度）

	社 数	構成比	金額 (百万円)	構成比
土 木 建 築 工 事	15	50.0%	237,739	50.2%
建 築 工 事	5	16.7%	52,378	11.1%
鉄 骨 工 事	2	6.7%	68,558	14.5%
管 工 事	2	6.7%	19,652	4.2%
そ の 他	6	20.0%	94,988	20.1%
合 計	30	100.0%	473,315	100.0%

2019年度県内建設業売上高ランキング(上位30社・速報)

順位	前年度 順位	社名	所在地	決算 (月)	売上高 (百万円)	伸び率
1	2	(株)角藤	長野市	1	60,168	14.0%
2	1	北野建設(株)	長野市	3	58,681	▲21.2%
3	4	綿半ソリューションズ(株)	飯田市	3	36,951	8.1%
4	3	(株)守谷商会	長野市	3	36,748	2.7%
5	6	(株)TOSYS	長野市	3	25,047	20.7%
6	5	(株)ヤマウラ	駒ヶ根市	3	20,565	▲27.6%
7	7	セキスイハイム信越(株)	松本市	3	20,123	13.5%
8	9	ルートイン開発(株)	上田市	3	19,548	51.6%
9	8	吉川建設(株)	飯田市	5	17,103	10.1%
10	13	(株)マナテック	長野市	9	12,669	14.7%
11	14	北信土建(株)	長野市	6	11,593	14.3%
12	11	(株)岡谷組	岡谷市	5	11,583	▲4.5%
13	10	ミサワホーム甲信(株)	松本市	3	11,223	▲7.9%
14	12	神稲建設(株)	飯田市	6	11,156	▲5.4%
15	15	ワールド開発工業(株)	長野市	6	10,457	9.0%
16	17	松本土建(株)	松本市	5	10,116	6.7%
17	16	(株)岩野商会	長野市	7	9,510	0.1%
18	20	甲信アルプスホーム(株)	松本市	3	8,723	13.0%
19	18	(株)青木鐵工所	長野市	4	8,390	5.1%
20	21	(株)竹花組	佐久市	6	8,099	14.7%
21	25	(株)マツハシ冷熱	長野市	3	6,983	22.9%
22	—	竹花工業(株)	小諸市	7	6,766	63.1%
23	22	富国物産(株)	長野市	2	6,732	▲4.4%
24	—	(株)相模組	大町市	5	6,626	54.2%
25	19	(株)新津組	小海町	3	6,502	▲18.5%
26	—	スワテック建設(株)	諏訪市	1	6,461	30.8%
27	24	北陽建設(株)	大町市	5	6,291	2.3%
28	26	(株)フォレストコーポレーション	伊那市	12	6,228	12.9%
29	—	木下建設(株)	飯田市	5	6,192	17.8%
30	23	パナソニックホームズ東海(株)	長野市	3	6,081	▲11.0%

※このランキングは5月20日時点で判明したデータに基づいて作成した。
 ※株主総会が終了していない企業の売上高は決算案である。
 ※前年度30位圏外は順位を記載していない。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 松本支店 担当:奥原
TEL 0263-33-2180 FAX 0263-35-7763

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。